

医学部 看護学科(論文) 問題解説

□■ 出題意図・評価方法・評価ポイント

- 〔Ⅰ〕 課題文は、長谷川和夫/猪熊律子の著書である『ボクはやっと認知症のことがわかった 認知症になった専門医が、日本人に伝えたい遺言』の一部である。出題範囲は、認知症である著者の体験、思考や行動の特徴、周囲の人々との関わりが表現された場面である。看護職を目指す受験生へ、対象理解、人権の尊重、倫理観、社会的課題、問題意識、表現力、論理的思考を問い、総合的に評価する。
- 〔Ⅱ〕 本問では、糖類を含む飲料に対する課税制度（以下、砂糖税）が導入されたことで、国民が飲料から摂取する砂糖の量が減少したかどうかを検証した英国の研究結果を示した。まず（１）では図表の数値を読み取ることに加え、その背景を考察できる分析力を問うた。さらに（２）では、行動変容を促す方策の一つである、リスクの高い健康行動に税を課すという仕組みが、個人や集団、社会に及ぼす影響を、単に税による強制力が働いたということだけではなく、多角的に論じることのできる洞察力を問うたものである。